

「信」という課題 参加者募集中!

親鸞仏教センターでは、毎年「親鸞仏教センター研究員と学ぶ公開講座」を開催しております。今年度は

■「大乘の「信」を起こす —「大乘起信論」を読む—」(全3回)

期日：2019年12月4日(水)、11日(水)、18日(水)
担当：藤村 潔 (ふじむら きよし) 研究員



■「般若波羅蜜の信と行 —「大智度論」を読む—」(全3回)

期日：2020年2月5日(水)、12日(水)、19日(水)
担当：戸次 顕彰 (とつぐ けんしょう) 研究員



■時 間：いずれも午後18時00分～19時30分

■資料代：500円
初回受付にてお支払いください。

※テキスト及び資料は当方で準備いたします。

■会 場：親鸞仏教センター 3階 仏間

「信」という課題」をテーマとして、下記の通り開催する予定です。「信」とは、仏教においては根幹に関わる問題であり、また私たちの生活を支える基本でもあります。現在の私たちの足下を確かめなおすためにも、あらためて今「信」を課題としたいと思います。

■「収容所の親鸞」という問い —ソ連領被抑留者の信仰を読む—」(全3回)

期日：2020年1月8日(水)、15日(水)、22日(水)
担当：東 真行 (あずま しんぎょう) 研究員



【最終講】

(期日：2020年2月26日(水)) 上記に加え最終回(第10回)の講座として、研究員3人を囲んだ交流会・質疑応答の時間を設けます。最終講まで是非ご参加ください!!

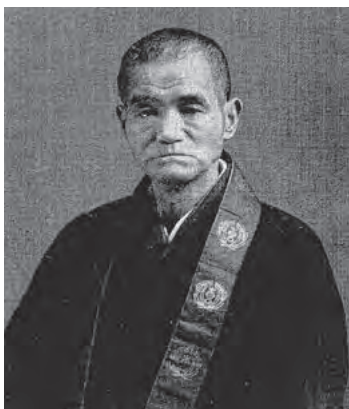
■お申し込み：参加ご希望の方は、下記問い合わせ先までご連絡ください。定員35名。連続10回の講座ですが途中参加も歓迎です。

問い合わせ先
親鸞仏教センター 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-19-11
TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901
E-mail shinran-bc@higashihonganji.or.jp

リレーコラム

「近現代の真宗をめぐる人々」第7回 (住田智見 [1868-1938])

住田智見といえば、地元名古屋の地において真宗専門学校(現・同朋大学)を設立した「学祖」として有名であり、また大谷大学学長を歴任した人物として知られる。住田の没後、門弟らが彼の遺徳を讃えて寄稿している。それらの記述によれば、大正7年(1918)に大学令発布に伴い「真宗大谷大学」を「大谷大学」に改名することとなった。しかし、住田は「真宗」という二字が無くなるならば、教壇に立つ意味がないとし、教授職を辞した。また、日本印度学仏教会創立の初代理事長、東大名誉教授であった宮本正尊(1893-1983)は学生時代、住田から真宗学の薫陶を受けたことを語っている。「今日多少なりとも『教行信証』はこうなどと言えるのは、ひとえに住田先生のお蔭である」と回想する。宮本の東大退官の最終講義は「証卷」であった。最晩年に住田が担当した『国訳一切経』所収の『教行信証』は、精緻な国訳・注解として傑作である。住田がこだわり続けた「真宗アカデミズム」は、今なお色褪せていない。(藤村潔)



親鸞仏教センターの動き

(2019年8月～2019年10月) 一抄出—

親鸞仏教センターでは、連続講座「親鸞思想の解明」(講師：本多弘之)を8月6日、10月15日に開催いたしました。また、月例研究会として、「三宝としてのサンガ論」研究会(戸次顕彰)、英訳『教行信証』研究会(田村晃徳)、『尊号真像銘文』研究会(菊池弘宣)を開催いたしました(※括弧内主催研究員)。7月から新たに東真行研究員主催の「正信念仏偈」研究会、藤村潔研究員主催の源信『一乗要決』研究会が始まりましたことをご報告申し上げます。新研究会の概要は本誌6、7頁に掲載されております。また、9月30日には、当センターに佐藤卓己先生(京都大学大学院教育学研究科教授)を講師としてお招きし第63回「現代と親鸞の研究会」が行われました。詳細は近日中にご報告いたします。

■研究発表

- ・長谷川琢哉「井上円了における進化論的倫理学の射程」(東アジア人文フォーラム〔8月4日、於北京大学〕)
- ・中村玲太「顕意の「唯心浄土」批判」(日本印度学仏教会第70回学術大会〔9月8日、於佛教大学〕)
- ・東真行「聖徳太子と日本主義——金子大榮を中心に」(日本宗教学会第78回学術大会〔9月15日、於帝京科学大学〕)
※パネル発表(パネルテーマ：「親鸞と日本主義の間」)
- ・飯島孝良「近代の居士禅における『臨濟録』受容と反響——前田利謙の場合」(日本宗教学会第78回学術大会〔9月15日、於帝京科学大学〕)

センター新スタッフの紹介

事務長	はやみ 速水	かおる 馨
書記補	ふどう 不動	まさとも 眞智